

4 素案に対する市民意見の結果

構想策定にあたっては、素案を公表し、市民意見の募集を行い、この結果を構想策定の参考にしました。

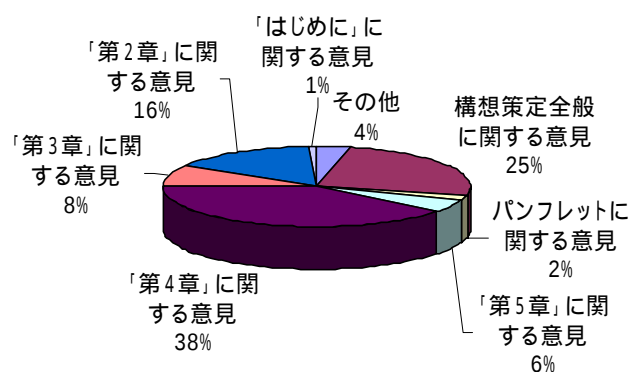
— 「身近な公園再生構想（素案）の市民意見募集の概要 —

実施時期	平成１５年（２００３年）８月１５日～９月３０日
概要	「身近な公園再生構想」の策定の参考とするため、「身近な公園再生構想」の素案を公表し、素案に対する意見募集を行いました。また、併せて、公園再生のアイデア募集を行いました。
実施方法	「身近な公園再生構想（素案）」の概要版の区役所などでの配布、広報紙「市民と市政」や広報ホームページへの掲載などにより周知を図り、素案及び概要版に添付してある封筒による郵送、ファクス、電子メールなどにより意見を募集しました。
回収状況	応募総数　１４４通 内訳　郵送　　１１７通　　ファクス　１０通 電子メール　１１通　　電話　　１通 口頭　　５通

素案の内容に関する意見（109件）

・構想策定全般に関する意見は、全体の25%（27件）を占めており、その内、構想に賛同する意見が約7割（18件）を占めています。また、現状の公園のままで良いという意見が約2割（6件）の割合となっています。

・「第4章 身近な公園の再生」に関する意見が全体の約4割（42件）を占めています。また、その中で「公園は地域、自治会等に管理してもらうのが最善だと思う」など、公園を地域に任せたらどうかという意見が約2割（8件）見られました。



身近な公園再生構想（素案）の構成

- ・はじめに
- ・第1章 構想の策定にあたって
- ・第2章 公園及び公園を取り巻く都市環境における課題
- ・第3章 身近な公園の再生に向けての着眼点
- ・第4章 身近な公園の再生～地域に愛され育まれる公園への再生～
- ・第5章 構想の展開にあたって

公園再生の提案・アイデアに関する意見（７２５件）

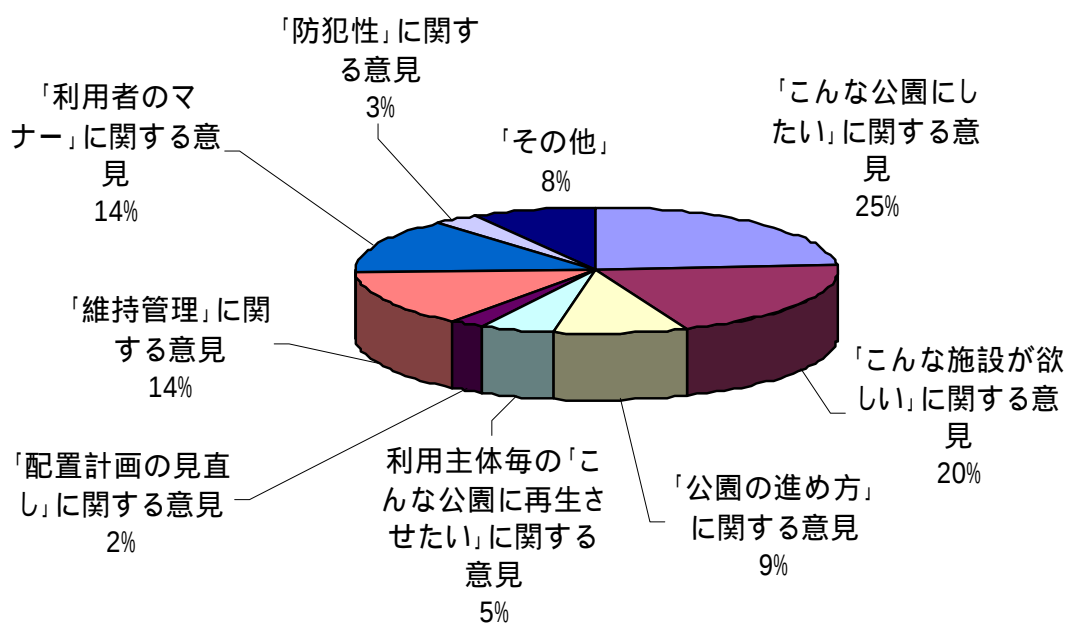
身近な公園再生構想（素案）に対する意見募集に併せて、具体的な公園再生のアイデアの募集を行いました。

・公園再生のアイデアに寄せられた意見としては、「こんな公園にしたい」といったアイデアが全体の２５％を占め、その中には、「花壇づくり」や「木登りや泥んこ遊びができる公園としたい」など、自然との触れ合いを求める意見が多く見られました。

・「こんな施設が欲しい」という意見は、全体の２０％を占め、「円卓ベンチを設置し、地域のふれあいの場としたい」「子どもの健全な育成を促すためのボールをぶつける壁やバスケットゴールを設置したい」など様々なアイデアが寄せられました。

・また、利用者マナーに関する意見が１４％、維持管理に関する意見が１４％となっており、現状の改善に対する意見も多く見られました。

—公園再生のアイデアに寄せられた意見（７２５件）—



—公園再生に寄せられた意見数の内訳—

「こんな公園にしたい」に関する意見		173件	「維持管理」に関する意見		104件
花壇づくりができる公園	29件		樹木	25件	
交流の場となる公園	25件		維持管理の体制	16件	
自然と触れ合える公園	24件		砂場	9件	
四季を感じる公園	20件		ごみ箱	9件	
日陰のある公園	16件		施設の補修	8件	
催しのある公園	11件		遊具の点検	7件	
憩いの場となる公園	11件		照明灯	5件	
球技ができる公園	10件		除草	4件	
グランドゴルフなどができる公園	6件		グランド改良	4件	
犬が喜べる公園	6件		清掃	4件	
散策のできる公園	4件		公園のバリアフリー化	3件	
地域に適合した公園	3件		倉庫	3件	
特色のある公園	3件		看板	2件	
雨の日でも利用できる公園	3件		その他	5件	
その他	2件				
「こんな施設が欲しい」に関する意見		146件	「利用者のマナー」に関する意見		102件
遊具	35件		ペット	34件	
樹木・花	30件		ごみ	17件	
ベンチ	21件		物損	11件	
サッカーゴールなど	8件		マナー全般	10件	
屋根	7件		看板	10件	
時計	6件		花火	7件	
フェンス	6件		若者の夜間の騒ぎ	4件	
トイレ	5件		自転車	2件	
健康器具	4件		その他	7件	
芝生	3件				
藤棚	3件		「防犯性」に関する意見		22件
休憩所	3件		「その他」		60件
掲示板	3件				
自転車置き場	2件				
その他	10件				
「公園再生の進め方」に関する意見		64件			
管理運営段階	23件				
行政の支援	20件				
計画段階	16件				
その他	5件				
利用主体毎の「こんな公園にしたい」に関する意見		36件			
子どもの視点	17件				
高齢者の視点	13件				
家族の視点	5件				
中高生の視点	1件				
「配置計画の見直し」に関する意見		18件			

■ 「公園再生のアイデア」に寄せられた主な意見

「公園再生のアイデア」に寄せられた意見のうち、「こんな公園にしたい」「こんな施設が欲しい」「公園の進め方」「利用主体毎の「こんな公園にしたい」「配置計画の見直し」に関する主な意見を紹介します。

■「こんな公園にしたい」に関する意見

花壇づくりができる公園

- 花壇を設けて老人のコミュニティの場であり、憩いの場所としたい。
- 花壇を作り何組かのグループに分担して花作りをしてもらう、苗の植え付けから咲き終わって処理・手入れを楽しみながらやってもらい、公園の滞在時間を増やし、公園に対する愛着を持ってもらう。
- 公園の三方に合計172.6㎡を花壇にして、地区内の愛好家に参加申し込みいただき、現在の雑草の場所を四季を通じて花のある公園にしたいと思う。現在、清掃活動を老人クラブで実施しているので、責任を持って維持管理することができる。
- 公園の一部を花壇（一区画：1㎡前後）とし、区民に花づくりをしてもらう。野菜も作られれば最高。花づくりに対して、多くの方々の関心は高いと思う。取りあえず場所がない人も多い。
- ヒラドツツジの植え込みは、取り除き、花壇として、長寿会、子ども会などで管理する。

交流の場となる公園

- 老人から幼児まで気安く立ち寄り、地域住民のコミュニティの場であり、くつろぎの場となればと期待している。
- 最近、家庭でも、住民の間でも対話が薄れる中で、気軽に世間話ができる場を設ける必要がある。このことから、公園の樹木の下に固定した木製の椅子付円卓を据えつけてみたい。この円卓を囲んで、公園を訪れる人たちが対話を弾ませて、仲間づくりに役立てて欲しい。
- 学校の近くにある公園には、お年寄りの人たちが中心となった野菜づくりを教えてもらうための畑コーナーはどうか。近所の人たち、親が留守中の子どもたちもそこに行けばいろいろなことを教えてもらうことができる。色々な意味での交流の場となるであろう。
- 三世代で花を植え、草取り等をし、町内三世代交流の場とする。

自然と触れ合える公園

- 子どもがのびのび遊べる自然いっぱいの公園として欲しい。私が小さいころは、身近なところに自然があふれていて、果物をとったり、はげ山に登ったり、たくさんの思い出をつくった。昔ながらの自然あふれる公園として欲しい。今の公園は固定遊具しかなく、遊び方も固定されている。身近なところに自然がなくなっている現在では、せめて公園ぐらいは自然いっぱいのものとしてもらいたい。自然の中で自分の目で見て、触れて、感じてもらいたい。
- 小さな子園でも、ビオトープがあり、子どもも大人も自然とふれあえる場所づくりが21世紀の公園と思う。もちろん、それには、住民参加が最重要視されなければならない。
- 泥んこになって遊べる場。ひたすら穴を掘ったりできる場があり、変化し続ける公園が良い。

四季を感じる公園

- 花の咲く木を植える、樹液の出る樹・昆虫の集う木を植える、果実（椎雄、どんぐりの実）のなる木を植えるなど四季を味わえる公園として欲しい。
- 住民の使いやすい公園づくり、又、草花が四季にわたり咲く公園にすれば老人、子どもたちも喜ぶと思う。
- 年中花が咲き、家族連れで花見ができる場としたい。

日陰のある公園

- 夏は木陰を求め、冬は陽だまりが求められる公園であって欲しい。
- 夏場、ゆっくりと休憩のできる日陰の場所が公園の片隅に欲しい。
- 日陰がないので隅の方に「藤棚」があればと思う。老いて井戸端会議などで友達をつくり、少しは和がもてるのでなからうか。そんな小さな心配りが必要と思う。

催しのある公園

- 町内のイベントを主とした公園。（町内の懇親の広場、盆踊り、祭り等のイベント）
- 子ども会、老人会、女性会、青年部の協力のもと、盆踊り大会、相撲大会、サッカーや野球の的あてゲーム、花壇の管理、もちつき大会、花火大会、町内体育祭などをしたい。
- 地域の子ども会、老人会他と交流を持ち、植物・花等の交換や花づくり教室・花づくり講習会をやってみよう。

憩いの場となる公園

- 緑の多い公園は人々の安らぎや季節感を与え、公園で癒され、リフレッシュしている。
- みんなが憩える公園として欲しい。

球技ができる公園

- 遊具の配置を再考して子どもたちに球技等を存分にさせてやりたい。
- キャッチボール、サッカーなどができれば良い。

グランドゴルフなどができる公園

- 外周フェンス、樹木スペースを含め公園一周グランドゴルフ場をつくる。

犬が喜べる公園

- 犬の立ち入り禁止は不可能だから、愛犬家と共有する公園として、犬の散歩ゾーンを設けて欲しい。外周の植樹帯の一部に芝生を植えて犬の散歩ゾーンにしてはどうか。
- 散歩にきて、犬のリードをはずせるスペースが欲しい。

散策のできる公園

- 団地内をウォーキングする方が大勢いるので、広場のまわりに植栽してある所を遊歩道のように整備してあると楽しいと思う。

地域に適合した公園

- 住民が木でも自由に切れたり、植えたりでき、アイデアある、その地域にあった公園とするべきだ。

特色のある公園

- 地域住民だけでなく、公園近くに来た人も、「あの公園の滑り台が面白い」というような魅力ある特徴のある公園にすることができれば理想的である。

雨の日でも利用できる公園

- 雨の日、遊べるスペースが欲しい。

その他

- 運動会でする綱引きがしたい。

■ 利用主体毎の「こんな公園にしたい」に関する意見	
子どもの視点	○ 幼い子どもが遊ぶ場合、ダイナミックに遊ぶことのできる泥んこエリア、大きな穴を思い切り掘っても大丈夫なスペースがあってもいい。今の子どもたちは力いっぱい土遊びを経験できたり、思い切りボールを蹴ったり、自転車をスピードだして走ることが出来たりできる“場所”がないのではないかと思う。そのための環境づくりがハード面、ソフト面、しいては周囲の意識改革が必要である。 ○ 公園を利用する人で一番は子どもたちにしたいと思う。公園が狭く野球も満足にできない。他の球技をする際も同様であるが、ボールが園外に飛び出し度々近隣の民家に損傷を与えている。フェンスをもう少し高くし、子どもたちに気兼ねなく球技遊びをさせたい。
高齢者の視点	○ 団地も少子高齢化しており、滑り台や砂場より家族ぐるみ、あるいは高齢者が憩えるような空間であって欲しい。 ○ 高齢化が進む団地に老人が楽しく憩える場所が欲しい。（昔の井戸端）
家族の視点	○ 狭い公園だけに、幼児とお母さん、老人を中心とした公園で良い。幼児が衛生的に遊べるように、芝生・足洗い場・幼児用のすべり台・幼児用のベンチ、父母と幼児、祖父母と幼児のスキンシップの場、家族向け公園となれば良い。幼児が楽しく公園デビューできる場であって欲しい。
中高生の視点	○ 中学生・高校生の“居場所”になるような公園が良い。
■ 「こんな施設が欲しい」に関する意見	
遊具	○ 木で作られたジム付きの滑り台やぶら下がりタイヤなど、温かみがあって、わんぱくぶりが発揮できる遊具の設置を希望する。 ○ 幼少用の遊具を増設して、遊具を充実して欲しい。 ○ 子どもの遊び場として大変有効な場所なのでブランコ及び滑り台、鉄棒等の色彩を塗り替えて少しでも明るい色彩にすれば楽しいのではないかと。 ○ 一体型の木製遊具を設置して欲しい。（階段、滑り台、格子状のロープでできたもの）一定方向の動きだけでなく、いろいろ動ける方が、子どもの創造性や好奇心が育てられる。
樹木・花	○ 子ども、家族、高齢者が集う大きな樹木（木陰ができる）が欲しい。 ○ 子どもたちが木登りを楽しめる大きな樹木を植える。 ○ 四季折々を満喫できる花木（桜等）が公園周囲にあると良い。
ベンチ	○ 木陰の下に丸テーブルと固定椅子を設ける。 ○ 極自然に一休みしたい気持ちになるカラフルな色彩と柔らかさのあるベンチにする。夏は木陰の下の涼しい箇所に、冬は暖かい日差しの射す場所に設置する。
サッカーゴールなど	○ 地域の会合で、子どもたちの遊び場や遊び方について色々な話しができる。中でも、公園を利用する子どもが減っているという言葉をよく聞く。もっと魅力ある公園づくりを我々大人が積極的に考えてあげないと、このままではますます公園離れが進むとの声がたくさん寄せられる。そこで、一人でも遊べるものを設置すれば、一人が二人、二人が三人とドンドン集まるだろうという根拠を基に、「バスケットゴール」「ボールをぶつける壁（野球・サッカー等）」の二つを何とか設置できないかと考えている。非常に簡単で分かりやすい遊具だと思う。 ○ みんながよくゴールネットの代わりにボールをフェンスにぶつけてサッカーをしている。公園にサッカーゴールをつくっていただきたい。小さくても、片隅でいいからお願いしたい。 ○ 青少年育成の立場から、一人でも団体でも遊べる、バスケット用ボードを設置して欲しい。（アウトドアスポーツの魅力に気づかせることが大事である。）
屋根	○ ベンチに屋根があると良い。
時計	○ 子どもたちが帰宅時間がわかるよう時計を設置する。
フェンス	○ ボールが飛び出て、近隣に迷惑がかからないようにフェンスを少しでも高くする。
トイレ	○ トイレがないため、トイレが必要である。
健康器具	○ 少子高齢化の時代になり、老人も楽しみ、体力維持のためのものがあると良い。基礎体力の機能回復のための平行棒等を設置して欲しい。 ○ 素足歩行栗石。健康促進道路往復コーナーを設置する。
芝生	○ ヨーロッパを旅行したが、芝生がとてもきれいである。広島市の公園にも芝生を敷き詰めたらどうか。
藤棚	○ 砂場の上に藤棚による日陰をつくる。
休憩所	○ 東屋の設置による長時間の談話ができるくつろぎの場が欲しい。
掲示板	○ 住民の郷土愛を育んでもらうために、公園内に先人の歩みが人目でわかる掲示板を設けてはどうか。
自転車置き場	○ 自転車置き場の設置を望む。
その他	○ ログハウスを中心に、イベントをしに人が集まったりできるようにする。

■「配置計画の見直し」に関する意見	
	○公園内を子どもの遊具設置、軽スポーツ運動場、犬の散歩場所に分類し、柵によってそれぞれの出入り口を考案して趣味に適した連帯感により、その機能を高めていくようにしてはどうか。 ○低木の植え込みは取り除き、公園スペースを広げ、けやきの高木の下にベンチを並べて休憩場所とする。 ○休憩スペースの拡大（散歩休憩、花の観賞、講習など）により、コミュニティに利用したい。 ○周囲にある形だけの「ツツジ」の植え込みを撤去し、平地を拓ける。 ○何も無い広場だけの公園があっても良いのではないが。
■「公園再生の進め方」に関する意見	
管理運営段階	○公園の管理運営は地域の町内会、老人会、子ども会等に任せたらどうか。 ○公園の管理は町内会で利用マニュアルを作成して管理者の責任で運営する。 ○これまでの地域への公園委託事項は、清掃、除草、巡回だけであとは土木課の管理下にある。このことから地域からの親しみも薄く、ましてや地域が欲する特色ある公園に脱皮しにくくなっている。そこで、できるだけ制限をなくして、地域にできるだけ任せてはどうであろうか。例えば花壇をつくったり、池をつくったり、地域が求めるものを地域の責任において取り組み、届出ですむようにする。 ○面積・場所の問題がある中で、現状の公園を如何に有意義に使うかの検討の必要がある。現在環境整備は老人クラブで月1回除草・清掃を実施しているが、主婦グループ、子ども会等が加わることで、住民全体に「きれいにする心」が湧くのではないか。 ○公園は地域、自治会等に管理してもらおうのが最善と思う。地域で競いあえば、関心も高まる。
行政の支援	○この様な行政側の意図は、地域住民の方に認識されていない現状である。モデル事業として、公園再生を至るところで実施する必要がある。 ○地域に愛され育まれる公園の在り方として、各地域に対し、公園再生に関するソフト面の情報宣伝活動が重要である。 ○ここ10年公園で子どもたちが遊んでいない。子どもたちの公園での遊びが規制されている。もっと大人たちが理解を示してやらないと、公園で遊ぶ子どもたちがいなくなる。公園の表示板の遊びについて、緩和を考えていただきたい。 ○公園の再生と一口に言ってもすぐできること、長い計画と資金を伴うものもあり、財政的な援助をお願いすることも多いと考える。 ○地域に専門的に教育された専任の人たち（町内会が選んだボランティア）を置き、地域活性化のために活動される人（ボランティア）を市が中心となって創生されることを望む。 ○公園管理に苦勞しておられる方で顕著な業績をあげておられる方は「市民と市政」等で紹介するとか、表彰制度を設けてはどうか。 ○こんな公園があったらいいな、という理想はそれぞれの地域で様々である。大人も子どもも含めて地域で、十分検討し、皆の手による公園づくりが可能となるよう市のシステム整備が必要である。
計画段階	○公園自体は、広さも違い、立地条件も異なるので、地区に適した同志の勉強会と見学会等を今後、重点的に考えていくべきである。 ○公園付近の住民にモニターをお願いし、公園利用者の年齢別・男女別・利用者数等を調査する。何故子どもたちが少ないか、何故特定の年齢の溜まり場となっているのか、ほとんど利用されていない公園があるのではないかなど再生の前に調査があっても良い。 ○参画の質（どういう立場の人にテーブルに着いてもらうのか、どこまでを住民の権限とするのか、ということへの熟慮など）を高いものとする必要がある。また、話し合いのテーブルにつくのが難しい人からのアプローチもしやすいと良い。息の長い（息切れせず、地域が自立していけるような）事業となることを願っている。 ○公園管理について、地域の代表者による協議会を立ち上げてはどうでしょうか。地域の具体的な声を聞いていただくとともに、行政としての方針や予算的な実情なども説明していただきたい。公園は地域と行政が一体となって明るく憩いの場にしなければならない。 ○学校の授業中での「公園づくり」を中心に、話し合ってみる。それを町内の公園ボランティアも参加して大人・子どもで意見交換をし、最終的には市に参加してもらおう。子どもたちの社会に対する参加の仕方、自分たちで環境をつくっていくといった意識の勉強にも役立つ。
その他	○公園の名称が画一的であるため、公園に対する愛着が持てないのではないか。地域に愛され公園の名称をつけたらどうか。 ○身近な公園を使いやすく再整備することには賛成である。しかし、地域のまとめ役が大変な仕事だと思う。このまとめ役のお手伝いが造園施工管理技師にできないか。公園を安全に利用監視できるリーダーの育成も大変な仕事である。公園から発生する自然素材（枝・葉・花）で遊び道具をつくるといった場合、創造性と遊びの卓越した人材が必要である。造園業での実務者である造園技能士を身近な公園パトロール員として、登録任命されても構わないのではと考える。樹木の病害虫発生報告や雑草の繁茂状況などを行政に通報して保守管理の手伝いをするなど、効果あると思う。造園技能士が即、公園利用アドバイザーにはなれないが、補佐的な仕事は可能だと思う。広島市に住む、造園技術者・造園技能士を再整備に活用されるよう提案する。 ○ニューヨークのセントラルパークでは、月に1・2回ボランティアが集まり、公園の整備を手伝うという。時間と労力を提供するだけでなく、その報酬として、植物の専門家から植物についてレクチャーを受けたり、草花の手入れの仕方を教えてもらったり、落ち葉から作った腐葉土を分けてもらったりしている。みんなが公園で気持ち良く過ごすためのお手伝いをするというのも気分が良いが、プラスアルファの部分、ネイチャーウォッチングや同じ趣味を持った人たちとのふれあいが人生を豊かにしてくれる。

5 参考文献

本構想で使用した資料・引用文献を含め、地域に愛され育^{はぐ}まれる公園への再生に向けて参考となる文献を紹介します。

■ 住民・行政の協働による公園づくり

- 「【協働】による公園づくり読本 - 住民と共に考える公園づくり - 」財団法人公園緑地管理財団編、大蔵省印刷局、2000
- 「こんな公園がほしい」小野佐和子、築地書館、1997

■ 子どもの遊びと公園

- 「みんなで公園いきいき」財団法人公園緑地管理財団編・発行、1987
- 「子どものための公園づくりガイドライン」財団法人公園緑地管理財団編・財務省印刷局、2002